

平成 21 年度 第 1 回 学校評議員会の概要

日 時 平成 21 年 9 月 4 日 (金) 14:10~17:00

会 場 本校 山仰館 会議室

出席者 ・学校評議員 : 熊谷光彦 千葉典子 永沢 稔 及川正二 (欠席 千葉康雄)

・学校側 : 校長 副校長 2 名 事務長 総務主任 教務主任 生徒指導主事

進路指導主事 生産技術科主任 産業技術科主任

日 程 受 付 14:10~

本校施設見学 14:35~15:25

学校概況説明、協議 15:35~17:00

- 協議事項 (1) 地域に期待される高校
(2) 本校への受検者増の取り組み
(3) 普通科の進学実績向上策

1 開 会

2 校長挨拶

学校評議員会は「開かれた学校づくり」の一環として各校で実施されている。地域のそれぞれエキスパートの方々からご助言をいただく機会である。年 2 回のうち 1 回目として前半部分のご助言をお願いしたい。現在、約 90 名の生徒が就職の第 1 次選考に応募・受験する予定であるが、できるだけ第 1 次の試験で合格することを祈っている。

3 自己紹介

4 学校概況説明

(1) 教務課

教務は主に生徒の学習指導を担当する。生徒数の減少もあり、生徒募集の一部も担当している。資料には今年度の体験入学を掲載した。1 回目は 7 月 9 日に生産技術科と産業技術科が実施し 89 名の参加、2 回目は 7 月 27 日に普通科も含め 3 学科で実施し約 300 名参加した。3 回目は 9 月 26 日生産技術科が予定している。実施結果については、参加中学生の感想をご覧いただきたい。

(2) 生徒指導課

本校の特色として部活動や応援団活動が活発に行われている点である。4 月の対面式、応援歌練習も始まり、部活動は 1 年生も 4 月 20 日から実施している。5 月後半高校総合体育大会があり、総合開会式には 1 年生が参加し他校を圧倒する応援で賞賛された。6 月下旬にはクラスマッチがおこなわれ、7 月中旬には校内合唱コンクールを実施した。高校野球は 1 回戦から全校応援の体制を組み、4 回戦まで勝ち上がった。部活動関係での特筆は陸上競技部のやり投げで小山美恵が国体出場、音楽部の東北大会出場である。

他に携帯電話を持つ生徒も多く、使用について講師を招いて講演会を実施している。

(3) 進路指導課

今年度の就職希望は管内 20 名 (希望者の 23%) 県内を含めても 31%、昨年度の 51% と比

べ県内希望者が大きく減少している。各企業からの採用枠も減少、非常に厳しい。今年は例年以上に就職指導の体制を強化している。就職支援相談員、職員が協力して職場開拓を実施している。

進学については、現在、県立大などの AO 入試に7名が出願している。今後、国公立の推薦、私立大の推薦の指導を実施する。私立大学の指定校制も希望が多い。本校は就職と進学がほぼ半々、9月は就職、10月以降は進学の小論指導と一般受験の指導が中心となる。

(4)生産技術科

生産技術科は1学級の募集である。生産科学コースでは農場での実習を中心に、生活科学コースでは調理や福祉関係中心に学習している。農業クラブでは県大会、全国大会がある。今年度は意見発表の部で4名が出場している。技術競技会（農業鑑定）の全国大会には2名が出場予定している。

中学生入学体験は、昨年より年3回実施している。生徒の研修として年5回農家や施設見学を実施している。流通関係は「道の駅」「家畜市場」「東京大田市場」の見学している。また、生活科学コースでは福島の特養老人ホームの見学を行った。

(5)産業技術科

今年度入学生から「電気・電子」と「機械」について幅広く学習を行うカリキュラムに変更している。1年生対象の講演会はモノづくりネットワークから講師を招き「働くいきがい」について実施し、3年生には「社会人の心構え」を江刺のプランゼージャパンの野見山執行役員からの講話をいただいた。エネルギー教育では、発電所の見学を実施し、1年生は女川原子力発電所、2・3年生は三居沢水力発電所、仙台市ガス局港工場を見学した。出前講座では本校生徒が講師となって東京と地元の子どもたちにソーラーッキングのプレゼンテーションをおこなった。技能検定では1年生38名と3年生3名が機械保全3級を受験し40名が合格、電子機器組立3級は10名が受験し10名とも合格している。

5 協議・意見交換

A 評議員：報告の中で感じたことだが、数年後に地元に戻って就農している人がいる。

そういう人もいるので高校で学んだことが役立っている。農業法人に就職するという形も今後出てくる。農協は総合的な業務をしているので、いろいろな資格を持っていることは将来の間口が広がる。その点を今後とも充実させてもらいたい。

B 評議員：本校のよさが PR 不足かなと思う。1次産業を大切に生活が成り立つ農業になるような教育を期待したい。U ターンしてくる人は大変優秀な人が多い。いい子どももたくさんいると思うのでどんどん売り込むかことが必要である。本校の受検者の減少はやはり PR 不足ではないか。新聞などにイベントをどんどん載せてもらい PR してもらったほうがよい。受検者増は良い学校に集まる傾向がある。近隣の中学校から喜んで入ってくるような学校づくりが必要である。義務教育ではないので能力別の授業も必要ではないか。各生徒の個性を伸ばすためにも必要ではないか。

C 評議員：子どもたちや親は進路を実現できる学校をめざす。部活動、勉強も自分のめざすものがその高校で出来るかということ。他校へ進学した生徒も長い年月で見れば、地元に戻ってきて地域のために活躍してもらえればよい。生徒が喜んでくる学校づくり千厩高校も生徒の希望を叶えてくれる学校づくりをしてもらいた。

D 評議員：自分の子どもが生徒で在籍していた時は新聞などの情報も目に入ったが、子どもが卒業してしまうと学校の様子が見えてこない。地域の人々に高校の様子を知らせていく手段・方法に

工夫が必要である。地域と接触する機会や高校を PR する機会を多くすることが必要である。

A 評議員：本校に地元の方は興味をもっている。文化祭などに来ている関係者が多い。学校を PR する部分をもう少し多くしてはどうか。農業・工業の特色を生かしていく工夫を考えてもらいたい。

産業技術科の研究発表は関係機関で取り上げてもらえるようなプレゼンにしたり、県とか市だけでなく発表の機会を広げる工夫も必要である。PTA 会報だけでなく、一関広報の千厩版なども活用してはどうか。

C 評議員：出口のことを話したが、子どもたちの希望とどのくらい結びついているか調査したことはあるか。本校は地域の子どもたちがほとんどだが、自分の夢をかなえてもらう結果になっているか。生徒の中には先輩の姿を見て千厩高校に入りたいと希望した生徒もいる。生徒自身の姿が千厩高校の PR になっていることもある。

進路指導主事：出口については進路希望の状況とともに資料に載せている。進路希望の実現もそうだが、生徒の能力を伸ばしてやること、進路の道を生徒に開いてやる指導が大切である。進路実現の方法を紹介してやること、能力を引き出してやることも大切である。

校長より：子どもたちの入学から出口までのデータがという話がありましたが、子どもたちの生活実態調査を考えている。本日いただいた貴重な意見を今後の子どもたちの指導に生かしていきたい。生徒の社会貢献への意欲や仕事の満足感に繋がる指導にしたい。

今後とも評議員会だけでなく日常からご指摘、ご指導をいただきたい。

6 閉 会